

## ■ 掲示板

### ■ 東京大学物性研究所 辛研究室助教公募

1. 公募する職名・人数：助教1名
2. 専門分野，仕事の内容：先端的な真空紫外・軟X線レーザーを用いた超高分解能光電子分光，時間分解光電子分光，顕微光電子分光などによる光科学とそれを用いた物質科学を推進する
3. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
4. 任期：5年，再任1回可
5. 応募資格：  
修士課程修了，又はこれと同等以上の能力を持つ方
6. 提出書類：  
○履歴書  
○業績リスト  
○主要論文3編程度の別刷り（コピー可）  
○本人に関する推薦書または意見書1通  
○研究業績の概要（2000字程度）  
○研究計画書（2000字程度）
7. 公募締切：2010年4月16日（金）
8. 書類送付先：  
〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5-1-5  
東京大学柏地区担当課総務係 電話 04-7136-3590
9. 問合せ先：  
東京大学物性研究所 辛埴 電話 04-7136-3380  
shin@issp.u-tokyo.ac.jp
10. その他：「先端分光部門助教応募書類在中」，又は「意見書在中」と朱書し，郵送の場合は書留とすること。

### ■ 第10回（平成22年度）財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞候補者募集

1. 授賞対象分野  
(1)「材料」(2)「半導体及び半導体装置」(3)「計測評価」  
(4)「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」
2. 授賞対象者：  
(1) 授賞対象は，論文の発表，特許の取得，方法・技術の開発等を通じて，実用化につながる優れた創造的業績を上げている人（複数人も可）とします。  
(2) 受賞候補者の国籍は問わず，日本国内において業績をあげた人を授賞対象とします。  
(3) 過去に応募されたことのある人でも再応募可能です。
3. 顕彰：各分野それぞれに賞状及び副賞（18金メダル・賞金300万円）を贈呈します。
4. 募集期間：平成22年2月1日から4月末日（必着）
5. その他：詳細につきましては，ホームページをご覧ください。  
※検索サイトで「山崎貞一賞」と検索下さい。トップページ（<http://www.mst.or.jp/prize/>）へのリンクがすぐに見つかりません。

### 6. 推薦書請求先，提出先：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6  
財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局  
TEL：03-3415-2200 E-mail：prize@mst.or.jp  
FAX：03-3415-5987 URL：http://www.mst.or.jp/prize/

### ■ 平成22年度後期 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光共同利用実験課題公募

**募集対象：**当施設の放射光および低速陽電子を利用する実験。  
主に大学等の研究者を対象としますが，科学研究費補助金の申請資格を有する企業等の基礎研究も対象となります。  
**応募期限：**平成22年5月7日（金）  
**応募要領：**平成20年9月から実験課題申請システム <https://pmsweb.kek.jp/k-pas/> を利用した電子申請となりました。  
申請受付は平成22年4月初旬からの予定です。  
具体的な申請書作成等に関する詳細については <http://www.kek.jp/uskek/apply/pf.html> を参照ください。  
**その他：**研究成果は公表していただきます。  
予算の範囲内で旅費支給等の便宜供与を行います。

### 問合せ先：

高エネルギー加速器研究機構  
研究協力部研究協力課  
共同利用支援室共同利用係  
Tel：029-864-5126 e-mail：kyodo1@mail.kek.jp

### ■ 独立行政法人理化学研究所 准主任研究員（定年制職員）公募について

独立行政法人理化学研究所では，以下の要領で准主任研究員を公募します。

1. 募集人数：若干名
2. 募集分野：研究分野は特定しません。応募者自身の自由な発想に基づく国際的視野に立った学際的な研究分野を開拓していただきます。
3. 応募資格：長期的視野を持つ，次世代の科学技術分野を創成できる自律的研究者で，研究室を主宰するのに十分な能力と研究業績を有する方。
4. 研究室と研究資金：  
(1) 准主任研究員は，主任研究員等とは独立に，研究室を開設し運営します。  
(2) 研究室立ち上げのため，初動資金の2000万円（原則）と任期制研究員枠が用意されています。  
(3) 所内，所外の様々な競争的研究資金への応募が可能です。  
(4) 研究活動への集中とその機動性を確保するため，准主任研究員は，主任研究員に比べて，研究所運営に関わる職務は軽減されています。

詳細は，<http://www.riken.jp/r-world/research/research/>

associate/index.html をご覧下さい。

5. 待遇等：年俸制（報奨金制度有り）。

通勤・住宅手当の支給有り。社会保険の適用有り。休日は、土日祝日、年末年始（12/29-1/3）、当研究所設立記念日。その他、当研究所規程による。

日本学生支援機構奨学金（平成15年度までに大学院第一種奨学生に採用されている場合）の返還特別免除の対象職。科学研究費補助金の申請資格有り。

6. 勤務形態：常勤，60歳定年。勤務地は原則として和光研究所又は播磨研究所。

7. 着任時期：原則，2011年4月1日

8. 選考方法：書類審査による一次選考の後，2010年8月下旬に面接セミナーを行います。

選考結果は，可否に関わらず通知致します。審査内容，選考結果に関する個別の問合せはお受けできません。

9. 応募様式・その他：詳細はHPを参照して下さい。

<http://www.riken.jp/r-world/research/research/associate/2011/index.html>

10. 応募締切：2010年5月14日（金）17時（日本時間）必着

書類提出は郵送もしくは直接持参に限定。郵送の場合は必ず書留とする。E-mail, fax での申請の他，書類不備や締切後の申請は受け付けません。

11. 書類提出・問い合わせ先：

〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1（展示事務棟 3階）

物理化学研究所 基礎基盤研究推進部 研究人事課  
准主任研究員担当

E-mail：riken-ac@riken.jp

電話による問い合わせは不可

[個人情報の取扱いについて]

提出頂いた書類は，独立行政法人理化学研究所個人情報保護規程に則り厳重に管理し，採用審査の用途に限り使用され，正当な理由なく第三者への開示，譲渡及び貸与することは一切ない。

## ■会告

### ■第14回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2009年9月14日開催の学術等選考委員会の選考結果として3名が推薦された。

氏名，所属，並びに，選考理由は下記の通り。

その結果を受け，第84回評議員会にて第14回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され，第23回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

・高橋幸生（大阪大学大学院工学研究科 附属フロンティア研究センター）

「コヒーレント X 線回折・散乱イメージング技術の開発とその応用」

高橋幸生氏は，放射光 X 線の最先端利用の一つである X 線のコヒーレントを利用した X 線回折顕微鏡法（XDM）の開発を行った。XDM は，アトムプローブ法や電子顕微鏡等の既存の顕微鏡法が苦手とするナノメートルスケールサイズ領域の空間分解能で三次元的に観察可能な構造評価技術として，将来の X 線自由電子レーザーで活躍が期待される手法である。高橋氏は，XDM の心臓部である位相回復アルゴリズムに独創性を発揮し，2000年頃から発表されてきている X 線コヒーレンスを利用した二次元イメージングの研究を三次元マイクロイメージングに発展させ，さらに元素識別化，動画化，電子密度定量化を可能とした。手法開発だけにとどまらず，この手法を利用して金属やその合金におけるこれまで観測が困難であった数十 nm サイズの析出物の観測に成功し，金属材料強度との関係を議論する上で重要な知見得られるようになったことは，高橋氏が開発した手法が広く産業界にもインパクトを与え，様々な分野で応用されることが大いに期待される。

高橋氏は，X 線自由電子レーザーを想定した新しい解析法も提案しており，今後物質中における原子レベルでのダイナミックスの可視化や結晶化困難なたんぱく質の構造評価が可能となるであろう。

このように高橋幸生氏の放射光科学における功績は大きく，日本放射光学会奨励賞に十分に値するものである。

・田中真人（独立行政法人 産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 光・量子イメージング研究グループ）  
「生体分子の放射光円二色性分光研究」

田中真人氏は，カイラルな構造を持つ生体分子の軟 X 線・真空紫外領域における円二色性の観測に成功し，学問的にも技術的にも未開拓であった放射光自然円二色性研究の分野を先導し切り拓いている。

多くの生体分子が持つカイラリティーは，生体分子の機能に根本的に重要な役割を担っている。このため，可視・近紫外領域での円二色性がタンパク質の二次構造を調べる手段として日常的に使用されてきたが，真空紫外領域から軟 X 線領域にかけての円二色性の観測は未開拓であった。田中氏は SPring-8 BL23に設置された左右円偏光切り替え可能なヘリカル・アンジュレータを用いて，軟 X 線領域におけるアミノ酸の円二色性に世界で初めて成功した。田中氏はさらに，産業技術総合研究所 TERAS において，生体分子の円二色性の研究を真空紫外領域にも拡張している。軟 X 線領域の円二色性の研究は従来理論が先行していたが，田中氏の実験がきっかけとなって理論家を刺激し，理論と実験が同時進行する時代になっている。

以上のように，生体分子の放射光円二色性分光研究における田中真人氏の研究業績は大きく，日本放射光学会奨励賞に十分に値するものであり，今後の一層の発展を期待するものである。

・山根宏之（自然科学研究機構 分子科学研究所 光分子科学研究領域）

「高度構造制御による有機薄膜・界面電子状態の精密実験」

山根宏之氏は，高度に構造制御した有機薄膜を調製し，放射光の波長可変性を利用した角度分解光電子分光（ARPES）の精密な測定を行うことで，それまで困難とされていた弱い分子間相互作用のバンド分散を世界で初めて観測した。有機薄膜のバンド分

散は非常に小さいため高分解能の測定が必要になるとともに、薄膜内部の構造の乱れや欠陥が多いため、電子構造の精密測定に耐えられるような高品位かつ安定な薄膜を作成しその光電子分光測定を行うことは困難とされていた。山根氏は、高度に配向した単成分有機積層膜を作成し、放射光 ARPES による精密な測定によって、積層方向の弱い分子間相互作用による僅かなバンド分散を観測することに成功した。さらにこの実験結果から、キャリアの有効質量や移動度などの輸送物性に関わる物理量を引き出せることを示した。この研究は、有機薄膜に対して、理論計算と十分な精度で比較しうる実験データを提供し、物理的議論の組上に載りにくかった有機薄膜の電子構造と輸送物性を十分議論できるレベルに引き上げた意味でその価値は極めて高く、その後の有機薄膜の電子構造の精緻な研究のさきがけとなった。さらに、山根氏は、このようなアプローチにより、高い正孔移動度を示す有機半導体として最も有名なペンタセンの単分子配向膜に対して、基板との間の界面電子状態の形成とその2次元バンド分散を実験的に実証し、その起源が基板を介した分子間相互作用の増大によるバンド分散の発現という新しい機構の提案をしている。

以上のように、放射光光電子分光による有機薄膜の電子構造研究のさきがけとなる研究を行い、その有用性を実証した山根宏之氏の放射光科学における研究功績は大きく、日本放射光学会奨励賞に十分に値するものである。

### ■日本放射光学会第85回評議員会議事録

日時：2010年1月6日(水) 12:00~13:00

場所：イーグレひめじ セミナー室A (4F)

出席者：足立伸一(編集幹事)、雨宮健太、雨宮慶幸、太田俊明、尾嶋正治(会長)、柿崎明人、河田 洋、北村英男、木下豊彦、木村真一(会計幹事)、小杉信博、坂田 誠、繁政英治、下村 理、田中 均、谷口雅樹、中井 泉、中川和道、生天目博文、野村昌治、間瀬一彦、水木純一郎(渉外幹事)、村上洋一、八木直人、山本雅貴、横山利彦 各評議員  
原田慈久(庶務幹事)、木村 滋(行事幹事)

欠席者：石川哲也、辛 埴、渡辺 巖、渡邊信久

事務局：佐藤亜己奈(WORDS)、西野三和子(WORDS)

0-1. 尾嶋会長より、「行政刷新会議事業仕分け評決結果」に対する学会の対応について説明があった。

#### 〈審議事項〉

##### 1. 2009年度決算・2010年度予算

木村会計幹事より、2009年度決算報告および2010年度予算の説明があり、承認された。

##### 2. 「シニア会員」の導入について

原田庶務幹事より、下記のシニア会員制度導入案について説明があり、審議の結果これを承認した。

##### 会員資格

- 1) 常勤時代に長年放射光学会正会員として放射光科学に貢献してきたこと。
- 2) 65歳以上で、常勤職退職後も引き続き放射光の発展に貢献したいと希望していること。

##### 会員の権利

- 1) 会費は無料とする。

- 2) 年会には参加費を支払って参加できる。
  - 3) 学会誌配布はないが、学会ホームページ閲覧パスワードが与えられる。
  - 4) 学会誌に投稿出来る。
- 尚、これに伴い定款が下記の通り改訂される。

(改訂前)	
定款 第2章、第5条	会員は、正会員、賛助会員、購読会員および名誉会員から成る。
(改訂後)	
定款 第2章、第5条	会員は、正会員、賛助会員、購読会員、 <u>シニア会員</u> および名誉会員から成る。

(改訂前)	
定款 第2章、第6条	正会員は放射光学の分野に関して学識を有し、評議員会によってその入会が適当と認められた者とする。 賛助会員は本会の目的に賛同し、その事業を援助する者または団体とする。 購読会員は、本会の刊行する出版物の購読を希望する者または団体とする。 名誉会員は、放射光学の分野において顕著な功績を有する者で、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。
(改訂後)	

定款 第2章、第6条	正会員は放射光学の分野に関して学識を有し、評議員会によってその入会が適当と認められた者とする。 賛助会員は本会の目的に賛同し、その事業を援助する者または団体とする。 購読会員は、本会の刊行する出版物の購読を希望する者または団体とする。 <u>シニア会員は、長年放射光学会正会員として放射光科学に貢献してきた65歳以上の者で、常勤職退職後も引き続き放射光の発展に貢献する意思があり、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。</u> 名誉会員は、放射光学の分野において顕著な功績を有する者で、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。
---------------	--

(改訂前)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額8,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。 ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。 賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。 購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 名誉会員は、会費を納めることを必要としない。

(改訂後)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額8,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、会費を納めることを必要としない。

(改訂前)	
定款 第2章, 第10条	正会員、賛助会員および名誉会員は、本会の催す各種の学術的会合に参加することができる。

(改訂後)	
定款 第2章, 第10条	正会員、賛助会員、 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、本会の催す各種の学術的会合に参加することができる。

(改訂前)	
定款 第2章, 第11条	正会員および名誉会員は、学会誌に寄稿することができる。ただし、その掲載の可否は、細則に定める編集委員会の決定による。

(改訂後)	
定款 第2章, 第11条	正会員、 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、学会誌に寄稿することができる。ただし、その掲載の可否は、細則に定める編集委員会の決定による。

(改訂前)	
定款 第2章, 第12条	会員は、学会誌の配布を受ける。ただし、会費を前納しない正会員、賛助会員および購読会員に対しては、その配布を停止する。

(改訂後)	
定款 第2章, 第12条	<u>シニア会員</u> を除く会員は、学会誌の配布を受ける。会費を前納しない正会員、賛助会員および購読会員に対しては、その配布を停止する。 <u>シニア会員</u> はオンラインでの閲覧に限る。

3. 会員異動 (入会)  
原田庶務幹事より、第84回評議員会以降の入会申請者に関して、正会員51名 (うち学生会員10名) の報告があり、これを承認した。
4. 協賛・後援について  
水木渉外幹事より本学会に対する協賛依頼について報告があり、協賛2件を承認した。
5. 男女共同参画学協会連絡会および物理・応用物理分野関連学協会間連絡協議会 (JABEE連絡協議会) の担当を水木渉外幹事をお願いする旨の説明があり、これを承認した。

#### <報告事項>

1. JSR10準備状況  
木村行事幹事よりJSR10のタイムテーブル、参加申込状況および学生発表賞の審査手順に関する説明があった。また、第24回年会・合同シンポ (JSR11) について、2011年1月7日 (金)~10日 (月) につくば国際会議場エポカルで開催予定であることが報告された。
2. ブルーバックスの発刊について  
足立編集幹事よりブルーバックス「放射光で見る物質のしくみ〜ナノテクから生命、地球の起源まで〜」の概要について説明があった。発刊予定は2011年1月、体裁はA5、刷り上り200ページ、価格は900円 (税込) を予定。対象とする読者層については一般市民、特に理科好きな高校生が読み通せるレベルを想定し、厳密さを保ちつつも分かりやすい内容にする。
3. AOFSSR (Asia/Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research) & Cheiron School 報告  
水木渉外幹事より2009年11月2日-11日にSPring-8で開催された第3回AOFSSRサマースクール: Cheiron School 2009について、下村評議員より2009年11月29日に上海で開催された第4回AOFSSRについて報告があった。尚、第5回AOFSSRは2010年7月5日-8日に韓国で開催予定。またAOFSSR, Cheiron Schoolの本学会での位置づけをより明確にするため、執行部にAOF担当幹事を置くことを今後検討することとなった。
4. 学術会議「大型計画等に関するシンポジウム」について  
雨宮評議員より、1月27日に開催される「物性物理学・一般物理学分野の大型計画等に関するシンポジウム」に向けて、放射光科学の将来計画について放射光学会大型計画WGで議論し、その結果を3年ごとに見直すことを前提にまとめることが報告された。また今後は施設と研究分野の両軸を基に議論をしていくことが示された。
5. 会員異動 (退会)  
原田庶務幹事より第84回評議員会以降の退会申請者に関して正会員8名 (うち学生会員0名) との報告があった。2010年1月6日現在の総会員数は1,360名 (うち学生会員145名)、賛助会員47社49口。

#### ■第23回 (2010年) 日本放射光学会総会議事録

日 時: 2010年1月7日 (木) 15:30~16:30

場 所: イーグレひめじ あいめっせホール

出席者: 出席者: 125名 委任状: 94名 計: 219名

定款第28条により、正会員の1/10（136名）以上の参加で総会は成立。

（議事）

1. 議長選出

議長に村上洋一会員を選出した。

2. 2010年度会長挨拶

尾嶋会長より挨拶があり、2010年度の活動方針について所信表明があった。また、「行政刷新会議事業仕分け評決結果」に対する学会の対応について説明があった。

3. 2009年度事業報告

原田庶務幹事より2009年度の学会活動について報告があった。

4. 2010年度事業計画・2010年度学会組織

原田庶務幹事より2010年度の事業計画および2010年度の学会組織（会長、幹事、評議員、各委員会）について報告があった。

5. 2010年度行事活動方針

木村行事幹事より2010年度の行事活動方針について報告があった。年会・合同シンポ、放射光基礎講習会、若手研究会を開催予定。

6. 2010年度渉外活動方針

水木渉外幹事より2010年度の渉外活動方針について報告があった。ホームページの英語版、全面更新を検討する。

7. 2010年度編集方針

足立編集幹事より2010年度の編集方針について報告があった。2011年1月にはブルーバックスを発刊予定。

8. JSR11について

木村行事幹事より第24回年会・合同シンポ（JSR11）について、2011年1月7日（金）～10日（月）につくば国際会議場エポカルで開催予定であることが報告された。

9. 第14回学会奨励賞

下記の3名を第14回学会奨励賞の受賞者として決定した旨の報告があった。

高橋幸生会員（大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター）

「コヒーレント X 線回折・散乱イメージング技術の開発とその応用」

田中真人会員（独立行政法人 産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 光・量子イメージング研究グループ）

「生体分子の放射光円二色性分光研究」

山根宏之会員（自然科学研究機構 分子科学研究所 光分子科学研究領域）

「高度構造制御による有機薄膜・界面電子状態の精密実験」

10. 2009年度決算報告

木村会計幹事より2009年度の決算報告があり、これを承認した。

11. 2010年度予算案

木村会計幹事より2010年度予算案が示され、これを承認した。

12. 「シニア会員」の導入について

原田庶務幹事より、下記のシニア会員制度導入案について説明があり、審議の結果これを承認した。

会員資格

1) 常勤時代に長年放射光学会正会員として放射光科学に貢献してきたこと。

2) 65歳以上で、常勤職退職後も引き続き放射光の発展に貢献したいと希望していること。

会員の権利

1) 会費は無料とする。

2) 年会には参加費を支払って参加できる。

3) 学会誌配布はないが、学会ホームページ閲覧パスワードが与えられる。

4) 学会誌に投稿出来る。

尚、これに伴い定款が下記の通り改訂される。

(改訂前)	
定款第2章、第5条	会員は、正会員、賛助会員、購読会員および名誉会員から成る。
(改訂後)	
定款第2章、第5条	会員は、正会員、賛助会員、購読会員、 <u>シニア会員</u> および名誉会員から成る。

(改訂前)	
定款第2章、第6条	正会員は放射光学の分野に関して学識を有し、評議員会によってその入会が適当と認められた者とする。 賛助会員は本会の目的に賛同し、その事業を援助する者または団体とする。 購読会員は、本会の刊行する出版物の購読を希望する者または団体とする。 名誉会員は、放射光学の分野において顕著な功績を有する者で、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。
(改訂後)	
定款第2章、第6条	正会員は放射光学の分野に関して学識を有し、評議員会によってその入会が適当と認められた者とする。 賛助会員は本会の目的に賛同し、その事業を援助する者または団体とする。 購読会員は、本会の刊行する出版物の購読を希望する者または団体とする。 <u>シニア会員は、長年放射光学会正会員として放射光科学に貢献してきた65歳以上の者で、常勤職退職後も引き続き放射光の発展に貢献する意思があり、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。</u> 名誉会員は、放射光学の分野において顕著な功績を有する者で、評議員会によって推薦され、総会によって決定された者とする。

(改訂前)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額8,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。 ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。 賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。 購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 名誉会員は、会費を納めることを必要としない。

(改訂後)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額8,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、会費を納めることを必要としない。

(改訂前)	
定款 第2章, 第10条	正会員、賛助会員および <u>名誉会員</u> は、本会の催す各種の学術的会合に参加することができる。

(改訂後)	
定款 第2章, 第10条	正会員、賛助会員、 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、本会の催す各種の学術的会合に参加することができる。

(改訂前)	
定款 第2章, 第11条	正会員および <u>名誉会員</u> は、学会誌に寄稿することができる。ただし、その掲載の可否は、細則に定める編集委員会の決定による。

(改訂後)	
定款 第2章, 第11条	正会員、 <u>シニア会員</u> および <u>名誉会員</u> は、学会誌に寄稿することができる。ただし、その掲載の可否は、細則に定める編集委員会の決定による。

(改訂前)	
定款 第2章, 第12条	会員は、学会誌の配布を受ける。ただし、会費を前納しない正会員、賛助会員および購読会員に対しては、その配布を停止する。

(改訂後)	
定款 第2章, 第12条	<u>シニア会員</u> を除く会員は、学会誌の配布を受ける。会費を前納しない正会員、賛助会員および購読会員に対しては、その配布を停止する。 <u>シニア会員</u> はオンラインでの閲覧に限る。

## ■会員異動

第85回評議員会(2010年1月6日)で承認

### 《正会員入会》

- 幸村 孝由 工学院大学工学部物理学教室  
 田村 和久 日本原子力研究開発機構 X線量子ダイナミックス研究グループ  
 小嗣 真人 財団法人 高輝度光科学研究センター  
 中野 智志 物質・材料研究機構  
 廣沢 一郎 勸高輝度光科学研究センター 産業利用推進室  
 竹本 邦子 関西医科大学物理学  
 加藤有香子 財団法人 高輝度光科学研究センター  
 菅谷 英生 パナソニック株式会社  
 Gnapowski Sebastian 佐賀大学  
 劉 紫園 NEC エレクトロニクス㈱  
 吉岡 聡 九州大学 工学研究院 エネルギー量子工学部門 松村・原研究室  
 堀江 一之 勸高輝度光科学研究センター  
 山崎 裕一 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 放射光科学第二研究系  
 藤原明比古 北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科  
 早川 恭史 日本大学電子線利用研究施設  
 高木 英典 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻  
 野口 祐二 東京大学先端科学技術研究センター  
 大越 慎一 東京大学大学院理学系研究科化学専攻  
 川合 眞紀 東京大学大学院新領域創成科学研究科 物質系専攻 川合研究室  
 高木 紀明 東京大学大学院新領域創成科学研究科  
 川崎 雅司 東北大学 原子分子材料科学高等研究機構  
 馬渡 和真 東京大学工学部5号館北森研究室  
 長谷川哲也 東京大学大学院理学系研究科化学専攻  
 水野 哲孝 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻 水野研究室  
 山口 和也 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻水野研究室  
 松本 祐司 東京工業大学応用セラミックス研究所松本研究室  
 大澤 健男 東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 橋詰・一杉研究室  
 一杉 太郎 東北大学 原子分子材料科学高等研究機構 橋詰一杉研究室  
 横山 英明 東京大学  
 伊藤 耕三 東京大学大学院新領域創成科学研究科  
 藤岡 洋 東京大学生産技術研究所  
 鯉沼 秀臣 東京大学新領域物質系  
 堂免 一成 東京大学  
 五神 真 東京大学大学院工学系研究科  
 小澤 章 NTT-AT ナノファブリケーション株式会社  
 出口 公吉 NTT-AT ナノファブリケーション株式会社  
 萩本 賢哉 ソニーセミコンダクタ九州  
 藤田 誠 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻  
 高橋 修 広島大学大学院理学研究科化学専攻  
 鈴木 勉 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻

全 炳俊 分子科学研究所極端紫外光研究施設

以上41名

## 《学生会員入会》

溝呂木輝彦 大阪府立大学大学院工学研究科電子・数物系専攻  
数理工学分野固体物性研究グループ永江 峰幸 名古屋大学大学院工学研究科化学・生物工学専攻  
生物機能工学分野山根研究室奥村 健一 兵庫県立大学物質理学研究科物質科学専攻エック  
ス線光学講座安江 拓也 東京工業大学 総合理工学研究科 材料物理学  
専攻 佐々木研究室樋口 翔史 関西学院大学大学院 理工学研究科物理学専攻高  
橋功研究室

細海 俊介 千葉大学大学院 融合科学研究科 上野研究室

西 一郎 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻藤森研究

室

片岡 未有 関西学院大学大学院・理工学研究科・化学専攻・  
山口研究室呉 彦霖 総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究  
科物質構造科学専攻林 博和 広島大学理学研究科物理科学専攻放射光物性研究  
室

以上10名

## 《退会会員》

正会員 8名

## 《会員数》

会員1360名 (内学生145名) 賛助会員47社 (49口)

## 一口メモ

## スノードロップ

「雪の雫」という意味をもつスノードロップはイギリス原産のヒガンバラ科ガランサス属の秋植えの球根である。属名のガランサスは白い花という意味をもつ。葉は緑色，線形でやや粉白をおびる。早春20センチメートルほどの花茎を出し，先端に恥ずかしそうに下向きの6弁の白色花をつける。室内園芸として好まれ，小さなプランターに植え，窓辺に飾ると香りが漂うので，潤いを感じる。花色，姿からユキノハナ，マツユキソウとも呼ばれている。

若者たちが学び舎から希望に燃えて社会に旅立つ季節がやって来ました。しかし，一昨年からの不景気で，未だに就職できない多くの学生がいることは大変心配です。さて，私は大学の定年年齢に達しましたので，3月末日で大学勤務を終了することになりました。現在，最終講義が済み，4月からは趣味のテニス，旅行，ガーデニング等でのゆとりのある時間を持ちたいという希望を持っていますが，学類の非常勤講師として講義，高大連携関連のボランティア，IUCr発行のJournal of Applied Crystallographyの編集委員の継続等で，すぐには毎日が日曜日となりません。

(No. 92, K. Ohshima)



日本放射光学会2009年度決算書  
自 2008年10月1日 至 2009年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入 学生会員会費収入 賛助会員会費収入 購読会員会費収入	8,372,500 44,000 2,191,500 582,500	11,190,500
会誌収入	会誌広告収入 会誌販売収入 別刷収入	2,490,896 61,364 715,599	3,267,859
年会・合同シンポ収入			11,578,750
創立20周年記念事業	理研/JASRI 共催金 KEK/物構研共催金 UVSOR/学会パンフレット協力	1,000,000 500,000 172,200	1,672,200
行事開催収入	基礎講習会	223,000	223,000
単行本出版収入	販売収入 (初版) 販売収入 (増刷版) 広告収入	1,181,100 461,600 201,600	1,844,300
事業外収入	雑収入 (20周年記念) 受取利息	30,000 2,091	32,091
収入の部合計			29,808,700



## 2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費 原稿料 発送手数料・郵送料	9,081,569 128,000 963,593	10,173,162
単行本出版費	初版 増刷版 ISBN 図書コード国際分担金 発送手数料・郵送料	640,000 516,075 2,100 235,820	1,393,995
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		160,706
年会・合同シンポ支出	開催費 委員会旅費 事務管理費	6,735,029 702,955 1,227,450	8,665,434
行事開催費	創立20周年記念事業補助金 創立20周年記念事業開催費 創立20周年記念事業パンフレット 基礎講習会補助金 若手研究会補助金	558,437 1,500,000 172,200 715,313 463,748	3,409,698
事業費	会議費 通信費 印刷費 事務局交通費	1,301,456 663,741 230,772 54,970	2,250,939
管理費	事務用品費 消耗品費 選挙開票アルバイト 運賃（宅急便+メール便） 支払手数料 租税公課	112,574 184,439 40,000 663,530 182,442 1,500	1,184,485
事務委託費	ホームページ維持費 Web 会員名簿維持費 会員業務費 庶務業務費 行事開催事務費	252,000 149,625 619,756 751,229 73,500	1,846,110
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費等	男女共同参画協会連絡会 ネイチャージャパン HP 掲載料	5,000 67,200	72,200
支出の部合計			29,616,729

## 3. 収支計算の部

当期収支差額			191,971
前期繰越金			10,470,868
次期繰越金	次期繰越金		10,662,839

## 2009年度資産負債明細

2009年9月30日現在

### 1. 資産の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額
1. 現金及び預金	手持現金残高	1,206,574
	郵便振替残高	2,212,004
	UFJ 銀行普通預金残高	2,451,001
	三井住友銀行普通預金残高	4,989,595
2. 会費未収金	正会員会費未収残高	1,605,500
	学生会員会費未収残高	35,000
	賛助会員会費未収残高	562,500
	購読会員会費未収残高	376,200
	会誌販売未収残高	95,700
3. 広告費未収金	広告費未収金	432,264
4. 立替金	第22回年会・合同シンポ(旅費など)	1,767,390
5. 学会誌在庫金	学会誌(創刊号-Vol. 22, No. 5) 3,160冊	3,476,000
6. 電話加入権		70,000
7. 什器備品(償却済み) 会長用 FAX 償却累計		14,111
		268,109
資産の部合計		19,293,839

### 2. 負債の部

科 目	細 目	金 額
1. 会費前受金	正会員会費	5,498,000
	学生会員会費	83,000
	賛助会員会費	3,050,000
負債の部合計		8,631,000

### 3. 剰余金の部

科 目	細 目	金 額
1. 前期繰越金		
2. 当期収支差額		
剰余金の部合計		10,662,839

## 日本放射光学会2010年度予算書

自 2009年10月1日 至 2010年9月30日

## 1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入 学生会員会費収入 賛助会員会費収入 購読会員会費収入	9,328,000 312,000 2,450,000 405,000	12,495,000
会誌収入	会誌広告収入 会誌販売収入 別刷収入	3,000,000 200,000 1,100,000	4,300,000
年会・合同シンポ収入			10,024,950
創立20周年記念事業	理研/JASRI共催金 KEK/物構研共催金 UVSOR/学会パンフレット協力	0 0 0	0
行事開催収入	基礎講習会	500,000	500,000
単行本出版収入	販売収入(初版) 販売収入(増刷版) 広告収入	0 550,000 0	550,000
事業外収入	雑収入(20周年記念) 受取利息	0 0	0
収入の部合計			27,869,950

## 2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費 原稿料 発送手数料・郵送料	9,000,000 100,000 900,000	10,000,000
単行本出版費	初版 増刷版 ISBN 図書コード国際分担金 発送手数料・郵送料	0 0 0 0	0
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		170,000
年会・合同シンポ支出	開催費 委員会旅費 事務管理費	7,081,671 789,610 1,069,650	8,471,935
行事開催費	創立20周年記念事業補助金 創立20周年記念事業開催費 創立20周年記念事業パンフレット 基礎講習会 若手研究会	0 0 0 500,000 500,000	1,000,000
事業費	会議費 通信費 サーバー移行(40GB)初期費用 印刷費 事務局交通費	1,300,000 700,000 11,550 200,000 100,000	2,311,550
管理費	事務用品費 消耗品費 選挙開票アルバイト 運賃(宅急便+メール便) 支払手数料 租税公課	100,000 200,000 40,000 600,000 200,000 1,500	1,141,500
事務委託費	ホームページ維持費 Web 会員名簿維持費 会員業務費 庶務業務費 行事開催業務費	252,000 150,000 600,000 700,000 100,000	1,802,000
会計業務費	税理士顧問料		460,000
諸会費等	男女共同参画協会連絡会 ネイチャージャパン HP 掲載料	5,000 0	5,000
支出の部合計			25,361,985

## 3. 収支計算の部

科 目	細 目	金	額
当期収支差額			2,507,965
前期繰越金			10,662,839
次期繰越金	次期繰越金		13,170,804

## 日本放射光学会2010年度組織

## ■会長（任期：2009.10.1-2011.9.30）

尾嶋 正治（東大）

## ■幹事（任期：2009.10.1-2011.9.30）

庶務幹事 原田 慈久（東大）

行事幹事 木村 滋（JASRI）

編集幹事 足立 伸一（KEK）

渉外幹事 水木純一郎（原子力機構）

会計幹事 木村 真一（分子研）

## ■評議員

（任期：2008.10.1-2010.9.30）

足立 伸一（KEK）

雨宮 健太（KEK）

柿崎 明人（東大）

河田 洋（KEK）

北村 英男（理研）

木下 豊彦（JASRI）

坂田 誠（JASRI）

谷口 雅樹（広大）

中井 泉（東京理科大）

中川 和道（神戸大）

野村 昌治（KEK）

山本 雅貴（理研）

横山 利彦（分子研）

渡辺 巖（立命館大）

渡邊 信久（名大）

（任期：2009.10.1-2011.9.30）

雨宮 慶幸（東大）

石川 哲也（理研播磨）

太田 俊明（立命館大）

尾嶋 正治（東大）

木村 真一（分子研）

小杉 信博（分子研）

繁政 英治（分子研）

下村 理（KEK）

辛 埴（東大）

田中 均（理研 XFEL）

生天目博文（広大）

間瀬 一彦（KEK）

水木純一郎（原子力機構）

村上 洋一（KEK）

八木 直人（JASRI）

## ■行事委員（任期：2009.10.1-2011.9.30）

木村 滋（JASRI）委員長

## ■渉外委員（任期：2009.10.1-2011.9.30）

水木純一郎（原子力機構）委員長

## ■編集委員

（任期：2008.10.1-2010.9.30）

足立 伸一（KEK）委員長

岡 俊彦（静岡大）

岸本 俊二（KEK）

組頭 広志（東大）

小林 幸則（KEK 加速器）

田中 義人（播磨理研）

玉作 賢治（播磨理研）

田村 和宏（JASRI）

彦坂 泰正（新潟大）

若林 裕助（阪大）

（任期2009.10.1-2011.9.30）

上村 重明（住友電気）

岡島 敏浩（SAGA-LS）

篠原 佑也（東大新領域）

高田 恭孝（播磨理研）

高橋 嘉夫（広島大）

永園 充（理研 XFEL）

平岡 望（台湾 BL）

広沢 一郎（JASRI）

舟越 賢一（JASRI）

矢代 航（東大新領域）

渡邊 信久（名古屋大）

## ■2010年度の主な事業計画

- 第3回 AOFSSR サマースクール (SPring-8, 2009.11.2-11)
- 第4回 AOFSSR (上海, 2009.11.29)
- 第23回年会・放射光科学合同シンポジウム  
2010年1月6日-9日（於：イーグレひめじ）
- 第23回総会  
2010年1月7日（於：イーグレひめじ）
- 第14回学会奨励賞授与  
2010年1月7日（於：イーグレひめじ）
- 若手研究会公募
- 放射光基礎講習会  
2010年夏季開催予定
- ブルーボックス出版準備  
2011年1月出版予定
- 評議員会（10月，1月，4月，7月）
- 幹事会（10月，12月，3月，6月）
- 編集委員会（年3回）
- 第15回学会奨励賞受賞候補者選定会議
- 次期評議員選挙
- 学会誌の定期発行（年6回）  
Vol. 22, No. 6/2009年11月末発行  
Vol. 23, No. 1/2010年1月末発行  
Vol. 23, No. 2/2010年3月末発行  
Vol. 23, No. 3/2010年5月末発行  
Vol. 23, No. 4/2010年7月末発行  
Vol. 23, No. 5/2010年9月末発行
- 第24回年会・放射光科学合同シンポジウム（2011年1月/つくば国際会議場）準備

## ■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2010年 5/25-28	第46回真空技術基礎講習会	大阪府立産業技術総合研究所	日本真空協会関西支部・(株)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部 E-mail: yamanaka@tri.pref.osaka.jp	23・2
7/25-27	埋もれた界面の X 線・中性子解析に関するワークショップ2010	名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリ	(株)応用物理学会 埋もれた界面の X 線・中性子解析研究会 E-mail: sakurai@yuhgiri.nims.go.jp	23・2

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

### ■第46回真空技術基礎講習会

真空技術の進歩とその応用産業の発展は近年めざましく、我々の日常生活に近い食品の真空包装、インスタントコーヒーなどのもとより、最先端のナノ技術を応用した半導体素子や究極の素粒子を研究する巨大な物理実験装置など、広範な分野での重要なキーテクノロジーになっています。また真空中では空気に邪魔されずに基礎的研究ができるため、新しいアイデアの正しさを確認して新製品、新プロセスを開発するのに役立っています。

本講習会では、真空とはどういうものか、どうして作り出すか、そのために必要な機器、システムは……など基礎技術を修得していただくことを目的にしております。日程の半分を実習にあて、講義で得た知識をすぐ身体で理解できるように企画しております。また大阪府立産業技術総合研究所の真空関連各種機器も見学していただく予定にしております。

平成15年度から日本真空協会、日本真空工業会では真空技術者の資格認定を行っており、2級真空技術者資格認定試験の問題作成には本講習会のテキストも参考にされます。真空を取り扱われるメーカー、ユーザーを問わず将来真空に関与されると考えられる方々のご参加をお勧めいたします。

**主 催：**日本真空協会関西支部・(株)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部

**協 賛：**日本放射光学会、他

**日 時：**2010年5月25日(火)～5月28日(金) 9:30～17:50

**場 所：**大阪府立産業技術総合研究所  
(大阪府和泉市あゆみ野2丁目7番1号)

**参加費(テキスト代実習費含)：**

主催団体会員 52,000円

協賛団体会員 55,000円

一般 60,000円

**定 員：**60名

**締切日：**2010年5月10日(月)

**申込・連絡先：**

大阪府立産業技術総合研究所内

(株)大阪府技術協会

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2丁目7番1号

TEL : 0725-53-2329 FAX : 0725-53-2332

Email : yamanaka@tri.pref.osaka.jp

### ■埋もれた界面の X 線・中性子解析に関するワークショップ2010

ナノサイエンス・ナノテクノロジーの研究開発においては、何がしかの物質によって覆われた「埋もれた界面」を扱う必要があります。そこでは、非破壊的な研究手法である X 線・中性子反射率法および回折・散乱・分光技術が有用と考えられますが、現代の未解決問題に対応するためには、大幅な技術水準の引き上げを伴う高度化を達成することが必須の課題となっています。最近、迅速・ライブ計測、微小領域分析・ビジュアライゼーション(可視化)、新たな情報の質の獲得等の点での高度化が進んでおり、特に、X線技術については、高輝度シンクロトロン放射光源等の先端研究施設を用いた進展には目覚ましいものがあります。他方、わが国では、大強度陽子加速器施設 J-PARC の物質・生命科学実験施設が2008年にパルス中性子の発生に成功しており、今後の新しい展開が期待されています。そして、こうした実験技術の進歩を実際の埋もれた界面研究に生かすために、理論的な研究との交流がこれまでになく重要になりつつあります。本ワークショップは、X線と中性子、実験と理論、あるいは半導体・電子材料からソフトマテリアル、バイオシステムに至る異なる応用分野間の交流を通し、埋もれた界面の諸問題の新たな解決との糸口を探ろうとするものであります。

**主 催：**(株)応用物理学会 埋もれた界面の X 線・中性子解析研究会

**協 賛：**日本放射光学会、他

**日 時：**2010年7月25日(日)～27日(火)

**場 所：**名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリ  
(〒464-8603 名古屋市中種区不老町)

**参加費：**無料

**プロシーディングス：**

ワークショップ終了後に英文論文集を発行いたします(IOP Conference Series: Materials Science and Engineering <http://www.iop.org/EJ/journal/mse>)。ご講演の方は、是非1件以上

のご執筆をお願いします。原稿は当日会場にて受付致します。  
ホームページ：<http://www.nims.go.jp/xray/ref/2010ws.htm>  
申し込み・問合せ先：  
物質・材料研究機構 桜井健次

〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1  
TEL：029-859-2821 FAX：029-859-2801  
e-mail：sakurai@yuhgiri.nims.go.jp

### ● 会誌オンライン利用方法に関するご案内

編集委員長 足立伸一  
渉外幹事 水木純一郎

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID：jsr232

Password：t7o2hgpo

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、学会誌「放射光」のオンライン閲覧をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等御座いましたら、水木（mizuki.junichiro@jaea.go.jp）までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、足立（shinichi.adachi@kek.jp）までお願いします。